平成 28 年度第 2 回南北海道定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録（要旨）

日時：平成 28 年 10 月 4 日（火）　15:30～17:20
場所：函館北洋ビル８階ホール

（15:30 開会）

＜挨拶＞

（函館市国際・地域交流課長）まずは，台風１０号をはじめ度重なる台風により，深刻な漁業被害や道道崩落による通行止など，当圏域でも，大きな被害にあわれた地域があり，
皆様の中には，引き続き，被害への対応に当たられている方々もいらっしゃると推察し，それらの被害と皆様のご労苦に対し，心からお見舞いを申し上げる。

さて，北海道新幹線が開業して半年が経過するが，８月の乗車率は４８％に達し，開業から８月まで１日平均の乗客数は約７，７００人,在来線だった前年の１８０％の利用があり，たいへん順調な利用状況となっている。

また，先日 TV 番組で放送された，北海道新幹線開業によって人の流れがどう変わったかをビッグデータで検証した結果では，当圏域において，函館だけでなく，木古内，松前，江差など圏域の広い地域に人の流れが生まれており，改めて開業効果を実感するとともに，訪れた方々にさらに広く圏域全体に宿泊していただくなど，今後ますます効果を全体に行き渡らせるための施策が必要と感じた。定住人口増加はもちろん理想的だが，東京への一極集中という国全体の状況があり，実現がなかなか容易ではない中で，交流人口増加による経済効果は地域住民にとって利益となり，北海道新幹線は交流人口を大きく伸ばすチャンス。そのためには，周遊観光ルートの構築や観光資源の磨き上げ，連携した PR，二次交通の利便性向上などに，この機を逸せず，一致団結して取り組んで行ければと思う。

結びに，皆様の忌憚ない活発な議論をお願いし，挨拶とする

＜議　　事＞

【議題（１）】　事務局より資料１－１－１，資料１－１－２，資料１－２－１，資料１－２－２，資料２に基づき説明

（南部座長）
追加事業の１つ目について，ご意見・質問はないか。

（高井委員）IC カードの追加事業についは，前回田中委員の方から，１事業者に対する補助金について，質問があったが，事務局の方から問題がないということだった。

地域の通院，通学，通勤の大事な生活路線になっているのもので，また新幹線の開業により観光客の利用も多くなっている，ということを考えれば，適正な補助金であるということであるので，この事業に登載しても良いのかなと思う。

（南部座長）
Ｐ２８ページの市町名を見ると，一部の市町名となっているが，記載の無い市町は，路線

のないところか。

（事務局）
　現段階で,当該事業への補助金支出の意思決定をしているのが,渡島の市町となっている。

（南部座長）
　今後の可能性としては，檜山の市町もあり得るのか。この機会に一緒に登載してはどうかと単純に思っただけだが。

（事務局）
　これまで，当部の担当課において檜山町村会さんを通じてお話させて頂く中では，現段階では，檜山管内の自治体さんでは当該事業への参加はないとのこと。

（南部座長）
　他に何かないか。
　では，後で気付いた時でも構わないので，２つ目の事業に移りたい。
　何かご意見・質問はあるか。

（高井委員）
　実は，北斗市でも平成２５年から函館高専と科学分野について，協定を結んでいる。
　以前は，出前講座や生涯学習の分野で，生徒さんに来てもらうことをしていたが，本格的に郡部の小学校へ，子ども達の理科離れの状況も受けて，科学への興味・関心を持ってもらうことを含め，正式に連携協定を結び，子ども達へ学習の機会を与えるということをしている。
　昨年の協定後，高専の得意分野である研究や情報と新幹線をからめてまちづくりに生かせるということでも協定を結んでいる。
　そういう意味では，こうした知的交流は，地域力向上につながるということで，非常に良いと思っている。

（南部座長）
　こういうことがきっかけで，私の大学は未来大学だが，ＩＴなどいろいろなことに広がっていくと思う。
　他に何かないか。後ほどでも構わないので，コメントをいただきたい。
　次に変更案全体について，ご意見，ご質問を伺いたい。

　ここで，皆さんの賛同を得て，変更案が成案となる。

　では，ご意見がなければこの変更案を「南北海道定住自立圏共生ビジョン」の成案として確定させていただく。よろしいか。

（各委員）
　了承

（南部座長）
　ありがとうございました。
　続いて，その他の（１）今後のスケジュールについて，事務局から説明をお願いする。

【その他（１）】　事務局より　資料３に基づき説明

（南部座長）
このたびの要綱改正に伴う，事業の進捗管理については，割と厳しく行っていくということに変わっていくということか。

（事務局）
現在，国や各自治体が策定する計画のほとんどが，成果指標を設定し，その進捗管理の体制を盛り込む内容となっており，この共生ビジョンも同様の変更指示があったものである。
進捗管理については，厳しく管理するというより，皆で設定した目標に向かって頑張ろうというものと理解している。

（南部座長）
他に何かないか。
では，次に（２）の次年度以降の追加事業の検討について事務局から説明をお願いする。

【その他（２）】　資料４に基づき，事務局から説明

（南部座長）
前回の会議で，私はとりあえず実現可能性は考慮せず，広くいろいろなアイデアを頂戴したいということで，皆様のご意見を頂戴し，いろいろな意見が集まった。今後は２回目，３回目に向けて，少し，実現可能性を含めて絞り込んで行くということをしたい。
資料に基づき，優先順位を付ける，または個人の視点で構わないので，事業の進め方などいろいろなご意見を伺いたい。
まず，自分が考えてきたことをお話したい。
９番について，既に今回の追加事業として登録するということになっているが，この事業の内容は，江差町と北海道教育大学函館校が連携していろいろなことに取り組んでいくというものであるが，この人材育成の枠組みの中で，もっとできることがあるのかもしれないと思っている。
去年の厚沢部の委員の方から頂戴した意見があった。地域おこし協力隊の方が地域との関係をつくるという時に，うまくいっているところもあるが，少し苦労をしているところもあって，別の委員の方が受け入れる側も，どういう準備をすればいいのかわからないということもあると言われていた。せっかく来てくれた方々を活かしきれないという難しさがあると

いうお話しがあったと記憶している。
　人材育成，連携という枠組みの中で，地域おこし協力隊に限らず，外からきた若い人材について，地域で仕事を持ってどのように活躍してもらうかということに関して，職員の方を中心に勉強会ができるような活動があるといいと思っている。
　これについては，南北海道には多くの地域おこし協力隊の方々が入っていただいているので，まずそこにヒアリングをするということを含めて実現可能性があるのではないかと思っている。
　まず１点私からの提案である。他の委員の方も，１番から９番に関して何かご意見を頂戴したい。

（八十科委員）
　今の先生のご意見の地域おこし協力隊の皆さんのご意見を伺いという活動に関しては，良いと感じた。この資料の中に関しては，後ほどお話ししたい。

（井口委員）
　奥尻町は，新幹線効果というものがなかなか見えてこない。観光振興による地域おこしについては，先ほど新幹線のことを話したが，約８，０００人くらいの観光客様訪れているということですが，うち１，５００人の方が渡島・檜山から逃げているということなので，函館市を含め，檜山・渡島と連携して，なんとかくい止めて，活かしていきたいと思っている。
　函館のホテルが足りないということだが，檜山はまだ余裕があるので，受け入れていきたい。

（田中委員）
　先ほどの地域おこし協力隊は，乙部町にも３人いるが，今現在活動してもらってる。３年の任期途中の２年で辞める方，地域になじめなかったのか，１年で辞める方，乙部町の職員も，本人との対話はしているものの，うまくいかないケースもある。ただ，昨年旭川から来た方だが，将来的に養蜂活動をしながら定住したいという，頼もしい方もいらっしゃる。
　全体的にみると，地域おこし協力隊の方が地域になじんで定住するということは，今後の課題だと思っている。

（角委員）
　長万部町では，今年３名の地域おこし協力隊が採用され，そのうち２名が観光協会へ配置いただいている。長万部町観光協会には，「まんべくん」という全国的に有名なキャラクターいて，観光協会の事業の中で，「まんべくん」の運営というのが大事なものになっており，全国にまんべくんファンがいるので，昨年は方々から依頼があり，年間１００日くらい活動をしている。今年は２名の協力隊を配置いただいたので，昨年以上の活動ができる。道内はもとより，東京，彦根など全国での活動を積極的にできる。
　観光協会には３名の地元職員と２名の協力隊がいるが，協力隊の採用により，人の流れができること，また，移住・定住という観点からも，協力隊の今後に期待している。

（堀田委員）

私は，七飯町の町内会連合会の会長をしている。七飯町の町内会の役員の中には，結構各地から移住してきた方がいる。その様な方々は，各種の会合等での積極的に意見を言われるなど，いろいろ活躍をしている。協力隊とは違うが，これまで長い間七飯町に定住されている方よりも，各地での居住体験があるので，新しい考えを持っている。

七飯町への移住の理由を伺うと，奥さんが七飯町出身だからとか，函館への移住イメージを持ってたが，七飯町で住宅が見つかったから，などという話しを聞いたことがある。

そのような方々の意見を聞くための方法を考えてみた。ひとつは，移住者の会を活用する。これが，各地に結構ある。函館にも組織されているはず。そのような方々は函館山登山や果樹園での作業を手伝うなどの活動をしている。各市，町で，そのような方々に移住者受け入れの改善点などについての意見を伺う機会を設けたらいいのではないかと思う。そのようなことは，事業化しやすいと思ったので，新年度以降の課題にしていただければ。

（新井田委員）

ご存じのとおり，木古内町には３月に新幹線の駅ができて，これまでとは違った人の流れが現在まで続いている。町では，数年前から新幹線駅を核とした９町の連携組織を作っており，二次交通を含めた観光客を道南の西部渡島，南部檜山に誘導したいということで，ワンストップで観光案内という目的で，駅前に道の駅をつくり，今現在予想以上の反響で，１０月１日現在で，４５万人以上の利用者がいるという統計が出ている。難しいのは，総論より，各論。観光客をそれぞれの町に誘導していく時に，例えば人材を配置するとか，いろいろなシステムを作るとか，財源が必要になる。その財源を連携する町に負担していただこうとすると，そこでなかなかまとまっていかない。今，そういう課題があると思っている。

先ほどから話題になっている地域協力隊だが，当町にも数年前に３名が入り，道の駅で２名活躍をしている。今現在１名が２年目を迎え，キーコというキャラクターを担当し，各所での PR 活動を行っている。地域協力隊の制度は最長で３年なので，４年目以降の仕事が課題であり，そこがスムーズに整理できるとこの制度は，非常に地域にとって良い制度だと思う。協力隊の方の思いと地域受け入れの差などからなじめないという課題もあろうかと思うが，最終的に３年過ぎて，仕事がなくなるとその町に住めなくなる状況になる。そこに課題があると思っている。

（高井委員）

商工会として，事業者のためにいろいろな資源を活用するための活動をしている。

新幹線が１日７，０００人の利用があるということで，それをなんとか商売につなげようと思っているが，なかなかうまくいかない。また，外国人の観光客も増えてきているが，受け入れる側，おもてなしする側として，若い世代はいいが，今までなかった状況なので，事業主の高齢化が進んでいることもあり，外国人の方のおもてなしはなかなかうまくいかない。これは，取り組んでいかなければならないことではあるが。

当圏域では，人口減少が進んでいることから，行政も様々な取り組みを行っており，この共生ビジョンにも各種の事業が掲載されている。

この共生ビジョンの追加検討事業の中で，少々疑問があるのが，「第三国定住」人道支援と

して難民の受け入れ。この事業は地域で扱うことできる事業なのか,様々な制約のある中で,どうなのか，今後もこの事業名がずっと残っていくものなのかということを伺いたい。
　また，この資料４の中で,「継続して検討する」と「継続して検討を進める」という表現があるが，その違いについて伺いたい。

（南部座長）
　では，まず表現の違いについて，事務局に説明をお願いしてよろしいか。

（事務局）
　「継続して検討をする」とした事業は，さらに検討を重ねていくものと思われるものであり,「継続して検討を進める」とした事業は，それらの事業より，１歩具現化の可能性があると思われたものを示している。
　また，高井委員ご指摘の第三国定住については，国もパイロットケースの取り組みをしている段階であり，これらの課題や受け入れ態勢などについて，充分な情報が届いていない状況がある。この事業名が今後も残るのかというご質問だったが，事業名は残るが，今後事業の具現化に向けた検討の際には，一度保留するという判断があってもいいとは思っている。これについては委員の皆様のご提案を頂戴しながら進めたい。

（南部座長）
　資料としては，事業名が残るが，条件が整っていないので具現化に向けた取り組みはまだできない状況ということ・・・。

（馬麗委員）
　先ほどは検索エンジンについて調べていただいて，ありがとうございました。私は，中国からの観光客に対して，サービスを提供する側の者として，最近の観光客の動向についてお話したい。テレビでは，最近爆買いが終わりましたという話題があるが，最近の傾向では，１箇所でまとめ買いをするという状況がなくなったかもしれない。以前は，免税店も少なくて，１箇所でまとめて買うのが多かったが，最近はいろいろな免税店も増えたし，団体のお客様より個人のお客様が増えて，いろいろ分散して買い物をされている。
　先日ですが，ニセコにいらしたお客様で，プライベートジェットで来道し１０日間滞在するという方だったが，またそこで土地を購入し，別荘を建てる予定もあるとか，そういうお客様もいらっしゃるし，本当に日本のことを楽しみにしている学生さんもいる。様々な方がいて，もっとディープな観光をしたいという要望が多い。買い物ももちろんしたいが，買い物というよりも函館に何日間か滞在して,実際に街を楽しみたい。函館山はとても有名だが,もし函館山がなければという観光を今後考えなくてはならないと思っている。それも，今後サービスを提供するうえで，プランを自分で考えなければならない。
　先ほど皆様が地域協力隊についてお話されていたが，大変恥ずかしながら，不勉強で，これから調べたい。私も８年から９年くらい前に函館に外部から来て，自分が函館に協力できたのは，子ども二人と私の３人の人口を増やしたことくらい。
　これから，各分野の先輩の皆様方からいろいろ学びたい。

（南部座長）
今，言っていただいた，函館山以外の観光プランを考える時に，渡島・檜山の全体を考えて行くというのが次の段階なのかなと思う。是非，各所を探していただいて，もし事業化できそうなことがあったら，ここに提案していただきたい。

（川内委員）
資料４の番号２に外国人観光客の誘客のための人材育成・掘り起こしがあるが，この後の事業として，外国人観光客の受け入れ体制として，個人客が増えているので路線バスや元町周遊コース，五稜郭などの周遊が増えている。また各地域にも外国人の方が廻っているというお話があったが，ツアーのように貸切バスで移動する場合は，添乗員やガイドがいるのでいいが，路線バスやレンタカー等で移動した方は，情報が少なくて右往左往しているなど，各地域に案内看板の不足がみられるので，南北海道で統一的なデザインをして看板を掲出できないか。
また，共生ビジョン登載事業の基幹道路とネットワークの整備の促進の事業があるが，バス会社においては，料金を設定する際に，距離と時間の関係があることから，観光バス等では，時間短縮ができるなら，道南エリアを廻ってみたいという声もあることから，引き続き，この事業に取り組んでいただきたい。

（三浦委員）
先ほどから出ている地域おこし協力隊のことだが，緊急雇用制度と一緒で，雇用期間というものが決められている。その期間が終了した後，どう職を見つけて定住していくか，という部分が難しいのではないかと思う。
ただ，協力隊同士の連携会議では，雇用して町になじんだという話しもあり，連携が必要なのではないかと思う。
資料４の番号６「地域特性を生かした産業の振興」として，町の特産品や食材を使ったメニューの開発や情報発信だが，日本において，旅行博や旅博，ふるさと祭りなどでイベントを紹介する機会があるので，こちらに広域で参加するとか，北洋銀行さんがやっている商談会などにも参加するとか，みなさん既にやっているが，モニターツアーなども含めて，広域で実施するのはどうかなと思っている。
冬期間の誘客がネックになっているので，冬期間にいかにお客さんに来てもらうかということを連携して考えて行く必要があるのではないかなと思っている。
各町でいろいろなイベントが行われているが，なかなか連携した見せ方ができていない。
例えば，ねぶたと連携して開催日を変えて何かをやるとか，函館港まつりが終わった後に，他の地域で何かイベントをやるとか，期日が重ならずに８月いっぱい何かを楽しめるとか，そういうような取り組みができるようになると，南北海道を周遊できるようになると思う。

（南部座長）
イベント間の連携をうまくやるということは，現在，どういう取り組みがされているのか。
具体的に事業化できそうなことがあるか。

（三浦委員）
　具体的にはないが，例えば松前町で，まぐろ祭りがあるが，そこに函館の人がツアーで参加する仕組みを作るとか，ある町のイベントに他の地域の人々が参加するというような交流をすることによって，連携がうまれて，情報発信することで，南北海道以外の方の参加も期待できるのではないかと思う。

（南部座長）
　観光客の方の長期滞在に繋がるというよりも，その前の段階として，地域同士の交流を第一段階として考えるということか。

（三浦委員）
　南北海道に住んでいながら，他の地域でやっているイベントなど知らない方も多い。足下を固めてから，情報発信をしていく仕組みを作るのが必要ではないかと思う。

（吉﨑委員）
　医療の立場から，資料４の番号４「地域住民のニーズに即した医療と福祉の連携」の関連意見に記載されている，道南における医学部設立など医療従事者の育成に関してだが，みなさん，お聞きになったことがあると思うが，２０２５年ころ，団塊の世代が後期高齢者になるので，医療，介護が手薄になると言われている。それに対応するべく，何らかの準備が必要であるということで，我々もいろいろ検討しているが，さらに道南地区においては医師不足，医療従事者の不足が話題になっている。というのも，道南には看護師養成学校はあるが，医療従事者の養成学校がない。医学部が理想だが，それ以外にも医療スタッフの育成が必要になると考えている。函館には医療の専門学校がないので，札幌や青森など他の都市に流出していく。その若者がまた函館に戻ってきてくれるといいが，大きな都市の待遇面とか環境面が良いので，流出したままになっている。
　この人口流出を防ぐという面からも函館市内において医療従事者養成学校を設立し，函館市内や道南圏の医療機関に勤めていただくことで，人口流出を防ぐ。それに合わせて医療と介護の連携体制の構築を図ることができるのではないかということを検討しているところであるので，是非これを追加事業としていただきたい。

（南部座長）
　ありがとうございました。
　資料４について，番号１を除いては，なかなか絞り込みというミッションが実現できなかった。
　１点だけ伺いたい。今年は台風被害などがあったが，これまで，この定住自立圏の枠組みの中で災害対策のような事業の提案はなかったか。

（事務局）
　これまで，災害対策事業という提案はなかったが，国で定める定住自立圏推進要綱を確認しながら，災害対策事業がどの項目に登載可能か調べたい。

（南部座長）
よろしくお願いする。その他何か資料４に関して意見はないか。

（角委員）
資料４の番号２に関連し，長万部町には，東京理科大学が開設し，３０年になった。昨年度は４５０人の学生が在住し，平成２７年度の国勢調査に貢献している。
資料４の番号３，通訳者育成に向けた外国語セミナーの実施について，東京理科大学は開学当初から，外国人の労働者が来ている。その方が，地元の中学校で英語を教えたり，一般社会人向け英会話教室を開催し，当観光協会の職員も率先して参加している。
というのも，長万部駅は外国人利用者が多い。昨年度は２３か国，２２０名の利用があった。
また番号９に関係し，今年，東京理科大学開設３０年の記念イベントが開催され，宇宙飛行士毛利さんの「宇宙から見た長万部」という講演と「３０年を振り返って，これからの地方創生に向けて」というフォーラムがあった。その中で，町と連携し，再生可能エネルギーを活用した，先進的アグリビジネス事業について発表があり，現在研究がビニールハウスで行われており，今取り組んでいるのはレタス。
追加の情報提供である。

（南部座長）
追加事業について，集約化はなかなか難しかったが，今後も継続して検討していくこととしたい。もし，この後でも何かご意見があったら，お寄せいただきたい。
次に（３）その他であるが，この会全体を通して，皆さんに一言ずつでもご意見を伺いたい。

【その他（３）】

（八十科副座長）
定住のために，一番必要なのは医職住である。特に医については大切で，檜山においては，高齢者が多いこともあって，重い病気になると函館に行くということがある。
また住み続けるためには，職も大切で，地域が少しでも発展していけば，若い人の働ける職場・企業等ができてくるのではないかと思う。
そういう意味で，連携した取り組みとしての医職住の大切さを改めて認識したところである。

（井口委員）
北海道新幹線開業に伴って，函館に降り立ったお客様を渡島・檜山へ誘客すること，また札幌延伸後の対策を見据えて，渡島・檜山管内滞在の仕組みづくりができればいいと考えている。

（田中委員）
　函館を中心として，今後この渡島・檜山地域が発展していくために，まだまだ考えていく余地は相当あると感じた。本日の会議も非常に有意義であり，今後もこのような会議が開かれることで，良い意見も出るのではないかと思う。

（角委員）
　長万部町は，陸路・鉄路の拠点ということあり，外国人の方が観光案内所に情報を求めて立ち寄る。我々が提供できるのは限られた情報だけ。各地域の観光案内所の職員同士の交流の場があれば，お互い顔の見える情報交換ができるのではないかと思う。是非各地域の窓口担当者との交流が場を提案する。

（堀田委員）
　町内会では，高齢者が多くなっており，買い物などの交通手段に関する良いアイデアが出てこない。函館バスさん，ＪＲさんにおいて，いろいろ検討いただいているが，身近なところで，タクシーばかり利用している方もいる。もう少し，交通手段の工夫があればいいと思っている。聞いたところによると，ある国では，一般の人に登録させてタクシー代わりに利用できるということがあり，国内でも少しずつ法整備が進んでおり，道内でも若干そのようなことが行われているらしい。道南においても，高齢者の足の確保について，何か良いアイデアがないかと感じている。

（新井田委員）
　木古内町では，お陰様で新幹線駅ができてから，今現在それなりに賑わっていると思っているが，当町では新幹線誘致のために１０年以上頑張ってきた。その中で新幹線の専門家の方々に言わせると，新幹線は諸刃の剣だということ。短時間で大都市まで行けるので，ストロー現象が起こると。田舎から東京まで４時間で行けるので，その現象をくい止めるのがこの定住自立圏の共生ビジョンの役割だと思っている。皆さんの共通認識だと思うが，地域を磨くということ。東京をまねしても，難しいと思う。地域を磨くということがこれからの課題であり，そのために，何をしていけばいいのかと感じたところである。

（高井委員）
　共生ビジョン懇談会にまちづくりの分野で参加させてもらっているが，非常に重い役割だと思っている。今後３０年間で人口が１７万人も減ってしまう。間違いなく，生産年齢人口も高齢化しており，ある評論家の意見だが，これだけ高齢化が進んで，生産年齢人口が減ってしまうと，難民でも受け入れしないと日本経済の成長が期待できないとういう。
　そこで，地域で自立して暮らしていけるように，中心市といろいろな連携を図っていく。人間追い詰められると良いアイデアもでるようで，先日，十勝のバスが宅配も行うということがあった。追加事業について，まだ良いアイデアはないが，きちんと考えていく必要があると思った。良い懇談会になればいいと思っている。

（馬麗委員）
今まで，観光客対応を仕事としており，視野が狭まっていたが，この会議に参加させていただいて，非常に勉強になった。
先ほど，南部先生がおっしゃっていた災害対策についてだが，具体的な事例があった。
先日の地震の際にＪＲも止まり，携帯電話で，何度も警報・注意報の情報があった。その時に，私の携帯電話はほとんどホットラインのようであった。函館に住んでいる外国人にとって，注意報がどのエリアのことなのか，自分の居住している所のことか，避難するべきか，ということがわかっていないという現状があった。
また，観光客の方が，ホテルで断水があったが，トイレを流していいのかどうかわからないないとか，明日の札幌発の飛行機で帰国しなければ，ビザが切れる，領事館，大使館に連絡とれないなど，そういうような場合の行政の窓口があればいいと思った。

（川内委員）
地域の人口減少が著しいというのは皆さん感じているところではあると思うが，各地域には相当数の観光客がいらしていると思う。そのような方にこの地域を気に入っていただいて，定住いただけるように，この会議を通じて皆さんと連携して頑張っていきたいので，今後ともよろしくお願いする。

（三浦委員）
この会議には２年間参加させていただいている。各市町の担当者のご尽力と事務局の調整で資料が大変良くまとまっていると思う。引き続きよろしくお願いしたい。

（吉﨑委員）
この地域に定住いただくためには，何らかの魅力がなければならないと思う。先ほど人口の流出，流入という話しをさせていただいたが，東京都に流入するのが一番多いのは，皆さんご存じのとおり。その次に流入が多いのは札幌市というのを聞いた。なぜ札幌市かといえば，魅力だけではなく，地元での進学先，就職先がないということで，仕方なくという方もいる。その対策も必要。さらに観光客に魅力を発信していくことができれば，人口増にも繋がっていくと思う。この会議で提案していただければと思う。

（南部座長）
最後に，私から皆さんへお礼とともに，一言。
このビジョン懇談会は難しいけれども，こうした皆さんとの懇談を通じて，皆さんがどのような意見をお持ちで，どのようなことに取り組んでいらっしゃるのか伺うことができることが非常に価値のあることだと思っている。
この場で事業化されたことについて，自分で外に発信するとか，自ら交流の場をつくり，情報を共有する場をつくるとか，この懇談会の次に個人として何ができるのかという，課題の見え方が大分変わってきたというのがある。毎回皆さんにいろんなご意見をいただいて，勉強になるともに，本日もみなさんのいろいろな意見を伺えて，有意義であったと思っており，集約ということにはならなかったが，実現可能性について，今後事務局と調整していき

たいと思っている。
　次回，第３回のビジョン懇談会も，ご協力をお願いしたい。
　最後に事務局から何か連絡事項等はあるか。

（事務局）
次回開催日程について
　・２月上旬を予定
第２回変更後の共生ビジョンについて
　・南北海道市町村連絡協議会を経て各委員への送付を予定

（南部座長）本日の議題が全て終了した。本日はこれで閉会とする。

（17:20　閉会）

出席委員　　１２名
欠席委員　　０名
傍聴者　　無